

## 具体的な対応方針（小豆構想区域）

### ○小豆構想区域の現状

	現状			プランを反映		
	必要 病床数	病床機能 報告 2017	差	必要 病床数	病床機能 報告 2025	差
高度急性期	10 未満	0	0	10 未満	0	0
急性期	83	185	102	83	144	61
回復期	102	0	△102	102	41	△61
慢性期	73	127	54	73	※87	14
計	258	312	54	258	272	14

※医療法人社団宝樹会小豆島病院の介護医療院への転換（40床、H30.6.1～）を除いた数値

### ○公立・公的病院等

病院名	病床機能報告 (2017年)		プラン (2025年)		プランによる影響
	急性期	慢性期	急性期	慢性期	
小豆島中央 病院	急性期	185	急性期	144	・急性期から回復期に 41 床転換する。
	慢性期	40	慢性期	40	
	計	225	計	225	

### ○構想の方向性に沿う具体的な対応方針

- ・小豆島中央病院

新公立病院改革プラン、公的医療機関等2025プランを踏まえた  
今後の医療機関としての役割等について

議論の論点	医療機関の役割等																																
<p>①2025年を見据えた構想区域において担うべき医療機関としての役割</p>	<p><b>2025年における役割</b></p> <table border="1" data-bbox="411 448 1378 618"> <thead> <tr> <th>がん</th> <th>脳卒中</th> <th>疾患心管</th> <th>糖尿病</th> <th>疾患精神</th> <th>救急</th> <th>災害</th> <th>へき地</th> <th>周産期</th> <th>小児</th> <th>在宅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>※プラン等に記載された今後の役割について該当する項目に「○」を御記入ください。</p> <p>・当院は小豆医療圏で唯一の公的病院であり、救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療、へき地医療、人工透析などの医療を継続的に提供することが求められている。</p> <p>また、地域内の医療資源も少ないため、かかりつけ医としての役割もあり、今後も地域の福祉と医療の中心的な役割を担う必要があると考える。</p>											がん	脳卒中	疾患心管	糖尿病	疾患精神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅				○		○	○	○	○	○	○
がん	脳卒中	疾患心管	糖尿病	疾患精神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅																							
			○		○	○	○	○	○	○																							
<p>②2025年に持つべき医療機能ごとの病床数</p>	<p style="text-align: right;">(床)</p> <table border="1" data-bbox="411 1003 1353 1151"> <thead> <tr> <th></th> <th>高度急</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>休床</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在</td> <td></td> <td>154</td> <td></td> <td>40</td> <td>31</td> <td>225</td> </tr> <tr> <td>2025年</td> <td></td> <td>144</td> <td>41</td> <td>40</td> <td></td> <td>225</td> </tr> </tbody> </table> <p>(考え方)</p> <p>・現在、地域医療構想に示された回復期病床は稼動していないが、回復期病床として地域包括ケア病床を開設するための準備として、11月1日に急性期病棟の機能変更を行い、15床程度を開設する予定である。今後は地域の医療需要を踏まえつつ、徐々に回復期病床へ機能転換を図っていく予定である。</p> <p>しかし、島内で唯一の急性期病床を持つ病院であり、当院の役割である地域の安心と将来を担う子どもを産み育てられる環境を維持するためには一定の急性期病床は必要であると考えます。</p> <p>現在、休床となっている31床については再稼動を旨とするが、医療需要の動向によってはダウンサイジングも視野に入れ検討する。</p>												高度急	急性期	回復期	慢性期	休床	計	現在		154		40	31	225	2025年		144	41	40		225	
	高度急	急性期	回復期	慢性期	休床	計																											
現在		154		40	31	225																											
2025年		144	41	40		225																											
<p>③非稼働病棟について、今後の方向性、構想との整合性の確保(※)</p>	<p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (地域医療構想との整合性の確保)</li> <li>・</li> </ul>																																

(※) ③の記載対象・・・病棟が全て稼動していない病棟を有する医療機関が記入対象。

(平成29年度病床機能報告において報告した平成29年7月1日時点の医療機能を「5 休床中、休床後の再開の予定なし、休床・廃止予定」と報告した医療機関等)